

Kris Davis & Eric Revis

[Profil]

Kris Davis (piano)



カナダ・バンクーバーで生まれ、カルガリーで育つ。
6歳でピアノを始め、カナダのロイヤルコンサバトリーでクラシック音楽を学ぶ。12歳頃からジャズに興味を持ち、特に彼女に大きな影響を与えたのはハービー・ハンコックとキース・ジャレットだった。高校卒業後、トロント大学に進みジャズ・ピアノを専攻し学士号を取得する。
1997年と2000年にバンフ・インターナショナル・ジャズ・ワークショップに参加し、即興演奏に興味を持つ。
2001年にニューヨークに移り、伝統的な調和的なアプローチから離れ、セシル・テイラーやポール・ブレイのようなピアニストを聴くようになる。

カナダ芸術院よりの助成金を受けジム・マクニーリーからピアノと作曲を学ぶ。

その後、ニューヨークのシティーカレッジでクラシック作曲家の修士号を取得し「School for Improvised Music」で教鞭を取る。
2011年に発表したソロ・アルバム「Clean Feed」「Aeriol Piano」はThe New York Times、JazzTimes、Art Forumのベスト・オブ・ザ・イヤー・リストに掲載される。Davisは、リーダーとしての仕事に加えて、Paul Motian、Bill Frisell、Tim Berne、John Hollenbeck、Michael Formanek、Mary Halvorsonなどのトップ・ミュージシャンのライブやレコーディングに参加している。
ジャズ・タイムズは「クリス・デヴィスはニューヨークのジャズ・シーンで最も独創的で創造的音楽を提供し、オリジナリティを大切にしているアーティストの一人として才能を発揮している」と評価している。
ダウンビートの投票で今年のライジングスター部門の1位に選ばれる。

Eric Revis (bass)



1967年生まれ。ジャズ・ベーシスト。
クレイグ・ベイリー(as,fl)らと活動した後、'98年からジェフ・“テイン”・ワッツ(ds)とのリズム・セクションで「ブランフォード・マルサリス・グループ」で活躍しその名を知られるようになり、今もレギュラー・ベーシストとして活躍している。
深みのある、アコースティックな、そして軽快にメロディックで明るいプレイはオリジナリティにあふれ特徴的だ。ブランフォード・マルサリスが彼のプレイを
”Eric's sound is the sound of doom; big, thick, percussive.”と述べるなど、
ジャンルを超えて多くのミュージシャンから評価を得ている。

また様々な音楽を取り入れているが、それ故にどんな状況、どんな音楽でも安定したプレイに定評があり、コンポーザーとしてもベーシストとしても高く評価されている。2004年に'Tales of the Stuttering Mime' 2008年に'Laughter's Necklace of Tears'を発表。ミュージシャン、コンポーザーとしての幅の広さを垣間見ることができる。次いで発表した"Parallax"(2012)、"City of Asylum"(2013)では、彼の音楽性、そしてその軌跡が明確になっている。これらのアルバムでは、コンセプトやインプロビゼーション、表現のテーマとしての広がりを深化させることに成功している。Jason Moran、Ken Vandermark、Nasheet Waitsも参加しており、彼のコンポーザー、ベーシスト、音楽の発信者としての成長の真の記録と言える。Betty Carter、Peter Brotzmann、Jeff "Tain" Watts、Kurt Rosenwinkel、Steve Coleman、Ralph Peterson、Lionel Hampton、McCoy Tyner、Andrew Cyrille、Tarbaby (Orrin Evans、Nasheet Waitsとの共同プロジェクト)等多くのミュージシャンと共演、レコーディングに参加している。グラミー賞を受賞など彼の世代で最も才能のある、また成功したミュージシャンであり、2000年以降のジャズ・シーンにおいて重要人物の一人である。